

2025 年度学校評価報告書

2025 年 4 月 1 日から
2026 年 3 月 31 日まで

学校法人コリア国際学園

2025 年度の教育活動は「夢・希望・目標」を実現するため、一人ひとりの「可能性」「チャンス」を最大限に広げると共に生徒一人一人のウェルビーイングの実現を目指すことを目標にあげた。具体的な活動基本方針は以下の内容で、項目ごとに各評価を行った。

1. 教育活動基本方針

1) KIS 基本精神の確認と共通理解：

- ① 本校の校是である「建学の精神（越境人）」「教育理念（多文化共生）」「教育実践の原則（自由と責任）」に関して教職員間で共通理解を持ち、全校生に対して OT や学級 LHR を通して学習を行った。
- ② 放置されていたスマホ使用に関しては、職員会議で話し合いクラスごとにルールを決め運用し、来年度に向けて一歩踏み出すことが出来た。

2) 各コースの充実と言語教育の強化・発展：

- ① 言語教育においては、TOPIK で 0 ベースから始めた生徒が 1 年半の学習で 5 級に合格や最上級の 6 級も複数合格することが出来た。
- ② IB コースにおいて、今年度も IBDP を取得した。
- ③ ICT 教育の推進は、高等部では評価できるが中等部においては不十分であった。
- ④ コースにより、在日コリアン史等を学期末に集中して特別授業等を行う必要がある。

3) キャリア教育と進路指導の充実：

- ① 高等部 2, 3 年生を中心に進路指導並びに進路説明会を行ったが、中等部の保護者も関心を持たれている方が多く今後は中等部も含めて実施する必要がある。

4) 2 学期制から 3 学期制への移行準備：

- ① 2 学期制において、授業時数・成績処理・進路などで不都合が出ていたので、3 学期制変更を視野にいれながら微調整を行ったが、色々と不都合な面が多く行事日程にも影響を及ぼした。次年度から 3 学期制に戻すための準備を行った。

5) 組織改編・教員研修：

- ① 教員研修を行い、校務と授業のスキルアップを行った。
- ② 教職員間の協力体制がとれる組織改編を行い中途退学者対策として「報告・連絡・相談」を担当の先生を中心に要請と指導を行ったが、報告不足のクラスがあった。
- ③ 退学者 11 名中 1 名は前年度留年生で休学者のため他の 10 名に関してみると、
 - ・〔コース別〕：K-POP コース 6 名（事務所と契約、高認合格・通信制などに進路変更）
留学生 4 名（ほとんどが親の意思で留学）
 - ・〔学 年 別〕：高 1-6 名，中 2-2 名，高 2・中 1-各 1 名
高 1 は担任からの報告が遅れ、十分に連携がとれなかった。
今後、高 1 の新入生に関しては、十分な目配りが必要である。

6) 教員評価制度の導入準備：

- ① 「教職員の意欲・資質能力の向上」と「学校の活性化」を目的として教職員評価制度の準備を進めてきた。具体的には大阪府で行われている「教員評価・育成システム」を知人の校長先生からレクチャーを受けた。
- ② 評価項目として、1. 勤務評価 2. 協調性 3. 授業評価 4. 生徒指導 5. 校務遂行能力の5項目の予定である。

7) 生徒募集活動：

- ① 活動状況：・お問い合わせ件数：109 件
 - ・第1回 OS（5/31）参加者 10 組
 - ・第2回 OS（8/30）参加者 14 組
 - ・開成進学 F（9/15）参加者 17 組
 - ・コリア語&K-POP WS（9/20）参加者 10 組
 - ・第3回 OS（10/11）参加者 22 組
 - ・ウリジップ WS&説明会（1/17）参加者 12 組
 - ・追加学校説明会（1/24）参加者 8 組
 - ・京都 MARU WS&説明会（2/21）参加者 5 組
- ② 総括：国の外国人学校就学支援金政策等の影響により、一部保護者から「将来的な学費負担」や「進学継続への不安」に関する相談や問い合わせがあった。丁寧な情報提供と個別相談対応を継続して行った。ただ、外部からの入学希望者で情報のミスリーディングのため志望変更をした者がある一定数いると思われる。
今後も、生徒・保護者が安心して学び続けられる学校づくりを推進するとともに、多様なニーズに対応した募集活動を継続していく。

2. 各部署年度報告

1) 教務部

- ① 教務事務等全般を不断に改善していくため意識的に取り組んだ。
- ② 教員研究において、授業の質の向上を図るためにレベル別授業教科の教科会議・検定試験の分析・対策を行った。今年度、教員間の相互授業研究・参観は不十分であった。
- ③ 学習習慣定着のため、中等部放課後勉強会を実施した。学習が苦手な生徒も積極的に取り組む姿勢が見られた。
- ④ 学力向上の客観的实力と成長確認のために、以下の各検定試験の実施と大会出場をした。
 - 〔検定試験〕 ・ コリア語（TOPIK）：3 回（4/13、7/13、10/19）
 - ・ 英語（英検）：1 回（1/16）
 - ・ 日本語（漢検）：1 回（1/23）
 - ・ 留学生日本語（JLPT）：2 回（7/6、12/7）
 - 〔大会〕 ・ 第52回 韓国語弁論大会（7/27）優秀賞受賞
 - ・ 3 言語スピーチ大会（11/1）中等部・高等部共に優秀賞受賞

2) 生徒支援部

① 生徒指導：

- ・担任と連携し、指導や話し合いを重ね、生徒の成長につながる対応を行った。また、登校指導や声かけによってルールへの共通認識を高め、違反の事前予防に努めた。
- ・思春期かつ多様な背景を持つ生徒の悩みに対し、担任やカウンセラーだけでなく教職員全体で発見・解決していけるよう、教職員の連携を更に強めていく必要性を感じた。
- ・中等部では、勉強会実施やスマホ回収などを3学年で連携して行い、成績向上や授業態度改善など、一定の成果をあげることができた。

② 生徒会活動：

- ・生徒会役員は、行事計画・準備を自らの力でやり遂げ、イレギュラーな場面でも適切に対応することができていた。
- ・行事運営は、準備等に時間を費やすため、学校生活における課題の発見や改善、学級代表等との連携や、公約の実現に向けた計画や実施については、十分な成果をあげることができなかった。役員選挙においても仕組みを改善する必要がある。

③ ユネスコ活動：

- ・ユネスコ大阪支部からのボランティア呼びかけに、積極的に参加した。
- ・校内インターナショナルデーを実施した。
- ・課題としては、ボランティア精神を更に育てる必要がある。

3) 進路指導部

- ① 早い段階から生徒たちの進路計画の指導を行ったので、第一志望への合格率が高く、本人の望む進路実績を残すことができた。
- ② 生徒が積極的に受験の準備を行い、自主的な進路活動ができた。
- ③ 進路実現に向けたきめ細かなサポートを行うが、出願等の手続きにおいては生徒の自立を促す指導に徹底し、先を見通した早めの指導で生徒の選択の幅が狭まらないよう留意することとした。

4) K-POP 教育部

① プロデューサーパク チャンホ、コーディネーター 芝朋美 体制

今年度は2年連続となる「KPOP カバードダンス大会広報用ショート動画コンテスト」での優秀賞受賞、また他のコンテストでの2度の入賞を果たすことができた。

日韓交流イベント（ダンスコンテスト）の実行委員や、テレビ出演など、ダンスやボーカル披露にとどまらず幅広い分野で活動することができた。

② 以下の事業を行い、成果を上げることができた。

- a. オーディション企画：MARU オーディション送付4回、MODHAUS など
- b. イベント出演：万博イベント4回、韓国語弁論大会アトラクション、すくくっ子まつり、四天王寺ワッソ、やよい祭り など

- c. コンテスト入賞：
 - ・KPOP カバーダンス大会広報用ショート動画コンテスト最優秀賞
 - ・2025 KOBE K-POP SONG&COVER DANCE CONTEST ダンス部門優秀賞
 - ・RIZIN DANCE GRAND PRIX 2025 西日本大会本選出場&準優勝
- d. 外部イベント実行委員：THE マダンフェスティバル内 KWAVE DANCE CONTEST
- e. 独自発表会開催：12/22 ショーケース
- f. テレビ出演：サンテレビ放送「バキバキ★ビート！Ⅱ」
- g. 韓国研修：ソウル公演芸術高等学校
- h. 特別授業：ワークショップ（ダンス、ヘアーメイク&撮影会 など）
- i. インターンシップ企画：近隣小学校へ、ダンスインストラクターとして講師派遣